『微生物学』正誤表

（坂本順司 著，裳華房 刊）

（2021/7/8 現在）

第 3 版 2 刷（2021 年 7 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
5	表 1・1 下から 6	1892　イワノフスキー（Dmitri Iwanowsky，露）	1898　レフラー（Friedrich Loeffler，独）ら
		（タバコモザイク病ウイルス）	（ウシ口蹄疫ウイルス）
55	側注　8 行目	を発見	の純粋培養に成功

第 3 版 1 刷（2019 年 8 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
12	図 1・5	図全体を下記に差し替える． http://www.shokabo.co.jp/errata/5216/bisei-F01-05NEW.jpg	
13	表 1・2	表全体を下記に差し替える． http://www.shokabo.co.jp/errata/5216/bisei-T01-02NEW.jpg	
17	2	neutrient	nutrient
	3	neutrition	nutrition
93	6	細胞の外	構造体の先
102	下から 9~8	第 9 回報告（2012 年版）には 7 目，96 科，420 属，2618 種が記載されている．	2018 年版には 1 界 1 門 4 綱 14 目，150 科，1019 属，5560 種が記載されている．
	下から 6	を立てることはできず，ウイルスに「界」は割り当てられていない．大半の科は目にも統合できないため，包括的な整理は	を立てることはできず，大半の科は目にも統合できないため，高レベルの整理は
	下から 3	二本鎖であり，	二本鎖である．
103	表 7・1	表全体を下記に差し替える． http://www.shokabo.co.jp/errata/5216/bisei-T07-01NEW.jpg	
104	2	aquired	acquired
122	7		
105	下から 7	ヒト T リンパ球向性ウイルス（HTLV，成人 T 細胞白血病ウイルス）はレトロウイルスであり，	ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型（HTLV-1）はレトロウイルスであり，成人 T 細胞白血病（ATL）などの疾患を引き起こす．
123	10	（cytotoxic T cell，T_C）	（cytotoxic T cell，T_C，キラーT 細胞

			ともよぶ)
	11	調節性 T 細胞(regulatory T cell, T_R)	制御性 T 細胞(regulatory T cell, T_R, Treg, T レグ細胞)
133	19	oportunistic	opportunistic
150	表 10・1	表全体を下記に差し替える. http://www.shokabo.co.jp/errata/5216/bisei-T10-01NEW.jpg	
167	図 11・1	図全体を下記に差し替える. http://www.shokabo.co.jp/errata/5216/bisei-F11-01NEW.jpg	
182 183	参考文献	下記に差し替える. http://www.shokabo.co.jp/errata/5216/bisei-bunken-p182NEW.jpg http://www.shokabo.co.jp/errata/5216/bisei-bunken-p183NEW.jpg	
184	第 1 部 1-3.	[3 行目末尾] $=0.576\times10^{-14}$ g. [4 行目末尾] $(0.576\times10^{-14}$ g) [5 行目] $=3.47\times10^{16}$.	$=0.576\times10^{-12}$ g. $(0.576\times10^{-12}$ g) $=3.47\times10^{14}$.

第 2 版 3 刷(2017 年 2 月発行)にて修正済み (誤→正)

頁	行・見出番号	誤(修正箇所)	正(修正・加筆方法)
42	下から 4	独立の綱	独立の門
56	2～3	(2･2･2 節)	(2･2･2 項)
155	下から 12	乳酸菌	四連球菌の乳酸菌
156	下から 10	*bulgaricum*	*bulgaricus*

第 2 版 2 刷(2015 年 1 月発行)にて修正済み (誤→正)

頁	行・見出番号	誤(修正箇所)	正(修正・加筆方法)
164	i.の 11 行目	Sak Yeast	Sake Yeast

第 2 版 1 刷(2013 年 7 月発行)にて修正済み (誤→正)

頁	行・見出番号	誤(修正箇所)	正(修正・加筆方法)
4	12	国家の存否	国家の存亡
20	下から 2	酸素分子種除去系	活性酸素分子種除去系
36	側注(ギブズの自由エネルギー変化)	Gibbs free energy	Gibbs free energy change
44	5～6	化学独立生物	化学独立栄養生物
53	3～4	[「納豆菌は……命名されている.」を下記に差し替える.] 日本の納豆菌は,枯草菌に含まれる一群の株だが,“*B. subtilis* subsp. *natto*†”という亜種としての表記は,正式には認められていない.	

	6～7	納豆菌に近縁の……が生産した	納豆菌に近縁の株が生産した
57	16	化学合成	人工合成
71	下から 4	「志賀赤痢菌」の後ろに †（側注のマーク）を挿入する．	
	側注の追加	†志賀赤痢菌：赤痢菌属 *Shigella* には A～D の 4 亜群（subgroup）があり，A 亜群は志賀赤痢菌 *S. dysenteria*，B 亜群はフレキシネル赤痢菌 *S. flexneri* など独立の 4 種として命名されている．DNA 塩基配列の類似度に基づく一般的な系統分類では，いずれも大腸菌 *E. coli* に含まれる株と位置づけるべきだが，重篤な赤痢の病原菌としての医学的重要性から，別属・別種として扱われている．	
94	11	正確な類縁性を突き止めうるようになり，	分類の手がかりが増え，
	下から 11～10	［「ただしこれには……はっきりしていない．」を以下に差し替える．］ ただし，クロムアルベオラータとユニコンタをそれぞれ 2～3 界に分けて計 8～9 界としたり，ユニコンタ以外の 4 群を「バイコンタ上界」にまとめたりする考え方もある．	
101	2，5，11	外被	被膜　［計 4 箇所］
	11	その外被膜	その被膜
102	下から 9～8	2005 年の第 8 版……記載されている．	第 9 回報告（2012 年版）には 7 目，96 科，420 属，2618 種が記載されている．
103	表 7・1	表全体を下記に差し替える（pdf ファイル）． http://www.shokabo.co.jp/errata/5216/5216table7-1.pdf	
108	2	報告書第 8 版には 2 科 7 属	第 9 回報告（2012 年版）には 2 科 8 属
	6	Coconut	coconut
	7	Citrus	citrus
	9	Satellites	satellites
	下から 6	Prions	prions
114	本文 1 行目	病原体が生体に侵入したり表面に定着して安定に増殖する	病原体が身体内に侵入し，増殖する足がかりを得る
125	図 8・5	外被	被膜　［図中と説明の 2 箇所］

第 1 版 4 刷（2012 年 2 月発行）にて修正済み　（誤→正）

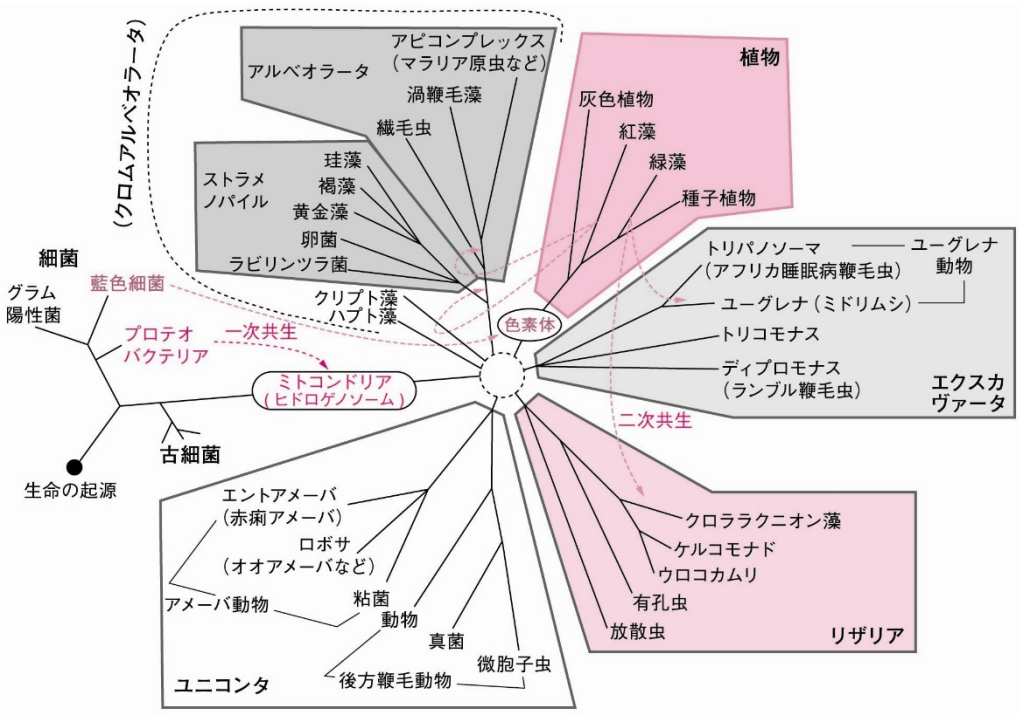
頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
184	下から 6	5.5×10g＝5.5×10^2g＝500g	5.5×10^2g＝550g

第 1 版 3 刷（2011 年 2 月発行）にて修正済み　（誤→正）

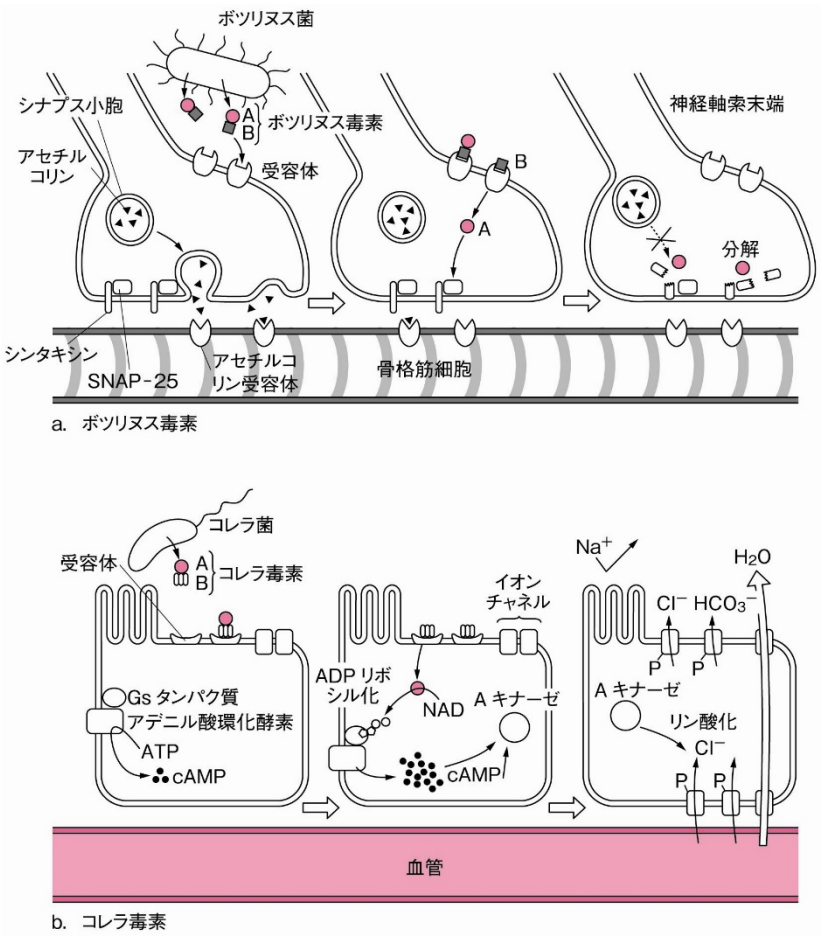
頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
91	下から 1	アワモリコウジカビ	アワモリコウジカビ†
	側注として追加	†アワモリコウジカビ：*A. awamori* と *A. niger* はいずれも黒く，18S rRNA の配列類似性（p11）に基づき合わせて *A. niger* の単一種にまとめる立場もあるが，後者は毒素生産株を含むのに対し前者は有益無毒であるなど，明確に区別できる．前者は泡盛の醸造に必要な黒麹（くろこうじ）を作り「黒麹菌」ともよばれるのに，“*niger*”がラテン語で「黒い」を意味するため和名の「クロコウジカビ」が後者に当てられており紛らわしいが，混乱は避けるべきである．	
92	下から 14	すべてこの同一種の	主にこの同一種の
95	図 7･2	［図説の末尾に下記の文章を追加.］ クロムアルベオラータの系統的まとまりには強い疑問が出されている．	
99	7･2･4 項の下から 4	放散虫 Radiolaria は殻をもつアメーバで，有殻アメーバという．その殻は通常 $CaCO_3$ でできているため	放散虫 Radiolaria は殻をもち，有殻アメーバとよばれる．有孔虫の殻は主に $CaCO_3$ でできているため
134	「1.「かぜ」は 3 種ある」の 8 行目	日本で例年数百万人が罹患し 1 万人単位の死亡者を出す感染症	日本で年に数百万人が罹患し 1 万人規模の死亡者を出すこともある感染症
153	下から 4	出芽酵母 *Saccharomyces cerevisiae* が働く（7･1･1 項）．かつては酒の種類によって別種としての学名がつけられていたものもあるが，結局種内の品種の違いであることがわかった．	サッカロミセス属 *Saccharomyces* の出芽酵母が働く（7･1･1 項）．主にはセレビシエ種 *S. cerevisiae* であり，かつて別種とされていたものでも結局 種内の品種の違いであることがわかったものもある．

図	95 頁　図 7･2

の修正



115 頁図 8・1



第 1 版 2 刷（2009 年 7 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
口絵 1	口絵⑥ c.	走査型電子顕微鏡像	透過型電子顕微鏡像
13	表 1･2	［「Ⅱ.細菌」の 5 行目の右端］ *Termus*	*Thermus*
35	側注の 6 行目	電荷 Z^{+}	電荷 z+
	側注の 10 行目	$\Delta\mu A^{z+}_{\text{in-out}}$	$\Delta\mu_{A}{}^{z+}{}_{\text{in-out}}$
43	側注の 4 行目	ギブス	ギブズ
68	図 5･1	走査型電子顕微鏡像	透過型電子顕微鏡像
75	側注「ノーベル…」の 7 行目	参考	選考
102	下から 13	悪用されるとった	悪用されるといった
114	8･1･1 項の 1 行目	微生物が生体に	病原体が生体に
135	下から 3	HA 阻害剤	NA 阻害剤
145	側注「市販名と…」の 13 行目	武田製薬	武田薬品
184	下から 9～8	1μm×2μm×2μm	1μm×1μm×2μm
	下から 7	2×2×（10^{-4}~~cm~~）	2×（10^{-4}~~cm~~）
		2^{2}・1.1・2.5	2・1.1・2.5
	下から 6	11×10^{2} g ＝1.1×10^{3} g ＝1.1kg	5.5×10 g ＝5.5×10^{2} g ＝500 g